

平成29年8月2日

## 食農学類(仮称)・農学実践型教育プログラムについて

平成31年度設置構想中の食農学類(仮称)では、地域が抱える食と農の課題の解決に向けて、実地に即した教育・研究を実践する「農学実践型教育プログラム」の開講を計画しています。福島県下の7地域程度をフィールドとする予定です。現時点での同プログラムの構想、実施予定地域の決定方法、説明会の日程などについてお知らせします。

「農学実践型教育プログラム」は、地域と大学とが協働し、食と農の抱える課題の解決に向けた「学びあう場・教育プログラム」です。地域は「学び」に必要な情報を提供し、学生は体験学習を通じて理解を深めます。大学教員は地域情報を集約し専門的見地からアドバイスを行います。学生は若く柔軟な発想を活かし地域と協働して課題解決に向けた設計図を描き、地域社会の未来の担い手としての力を身につけていきます。原子力災害からの農山村再生、地域ブランドの確立、もうかる福島型地域営農システム作りなどのテーマが想定されます。

異なる専門コースの学生同士が協調して同一課題に取り組むことが本プログラムの特徴です。学際的な視点から課題や問題を捉える能力や、農業者や農業団体、自治体、企業等との多様な利害関係主体と関わることにより、環境および生産、加工・流通等の具体的課題に対して、自己の専門的知識を総合的な観点から適用できる能力を養います。また、農業・食料産業の「川上」から「川下」にわたる技術的・社会的連鎖における4つの専門コース(食品科学、作物・栽培学、生産環境学、農業経営学)相互の密接な関連性の中から、新しい価値のある食と農のあり方を探求・創造する取り組みでもあります。

(お問い合わせ先)

農学系教育研究組織設置準備室 副室長 荒井 聡  
農学系教育研究組織設置準備事務室 室長 山崎 裕  
電 話 : 024-548-8212 (事務室)  
メール : [nogaku-j@adb.fukushima-u.ac.jp](mailto:nogaku-j@adb.fukushima-u.ac.jp) (事務室)

# 農学実践型教育プログラム

地域の課題に4コースの「学生」、「教員」が「地域の皆様」と一緒に取り組むプログラムです。

平成32年度より開始する3～5年間の長期プロジェクトで、2年次、3年次生を対象に週1回午後または土日、長期休業期間中に実施します。2年次後期から演習を開始し、3年生次に本格的に現地実習を行い、4年次進級後は新3年生に引き継がれます。

## 特徴

- ・フィールド実習を主体とした教育である。
- ・地域課題を析出した「地域課題解決型プロジェクト」のなかで研究・社会貢献と一体的に取り組まれる。
- ・各プロジェクトに4つの専門コースからそれぞれ教員が指導に入り、学際的なアプローチを行う。

## 地域課題

- ・産業の視点での次世代を担う農業経営の創出
- ・農業における先端技術の開発と普及
- ・食品産業のイノベーションによる地場産業の牽引

- ・食の安全と健全なフードシステム整備
- ・付加価値型農業の産地形成
- ・地域内での地域資源循環と都市と農村の交流の創生

- ・農業・環境整備をベースとした原子力災害の克服
- ・農村再生・地域づくりのコーディネーター・リーダー不足

## 農学実践型教育プログラム プロジェクト テーマ(例)

### もうかる農業・ 先端技術の確立 プロジェクト群

- ①「先端農業・ITCと企業経営」
- ②「他業種提携と医農連携」
- ③「エコファーマー・有機農業振興」

### 地域ブランド・ 付加価値型農業 プロジェクト群

- ④「食の安全認証と風評対策」
- ⑤「6次産業化と高付加価値化」
- ⑥「福島県産米・日本酒プロジェクト」
- ⑦「地産地消推進と地消地産体制」

### 原子力災害から の農村再生 プロジェクト群

- ⑧「放射能汚染対策と営農システム」
- ⑨「里山再生・地域資源活用」
- ⑩「地域づくりとネットワーク組織」

4つのコースの学生・  
教員混合で構成しま  
す。  
それにより広い視野  
で課題に取り組むこ  
とが可能となります。



地域の課題に挑む

# プロジェクト例



地域の皆さん

この曲がった規格外のアスパラガス、出荷すればするほど赤字になる。だからといって捨てたくない。味には自信があるんだけどなー。

目指せ、アスパラガス出荷量日本一！！アスパラガスと言えばおらが村って言われないな。

地域に潤いを与える商品を作りたい。

自治体



地元経営者

技術を若い者に伝えたいな。

地域のみなさんと農学群食農学類(仮称)で地域の課題に挑む

あと10年、畑仕事続けたいな。

## 西福島村寄附講座「アスパラガスで村民元気プロジェクト」

天候、土、水など環境による影響は？



生産環境学コースの学生

栽培での工夫は？



作物・栽培学コースの学生

曲がっててもいいでしょう。アスパラギン酸に注目し、健康食品としての検討は？



食品科学コースの学生

コンボを工夫し輸送費のコストダウンを図っては？



農業経営学コースの学生

連携

人間発達文化学類  
行政政策学類  
経済経営学類  
共生システム理工学類  
うつくしまふくしま未来支援センター  
環境放射能研究所

例  
包装のデザイン

・指導  
・助言  
・研究

重複する課題等連携

2

他のプロジェクト  
・学類学生・教員

4コース所属教員

# プロジェクトの実施方法

## 農学実践型教育 実施時間について

- 第4～6セメスターの授業(2年次後期～3年次後期 1年半)予定
- 金曜日 3・4時限(13時～16時10分)予定
- ※遠方地域の現地調査等活動は休日及び長期休業期間に実施予定



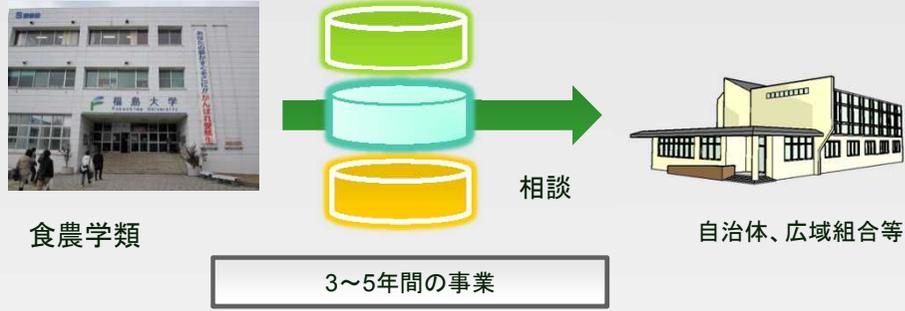
※先進地域等視察調査は必ず実施するものではありません。  
実施する際は別途経費を要します。

# プロジェクトの選定

実施プロジェクト数: 「7」プロジェクト程度

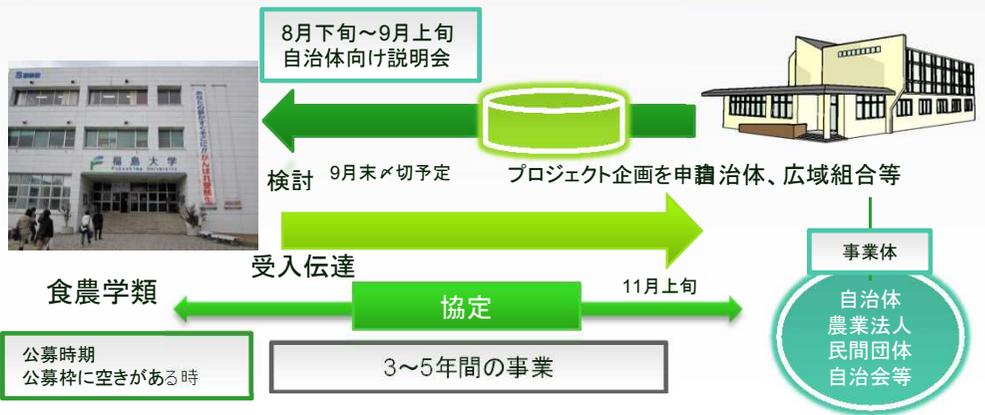
公募枠 4プロジェクト

連携事業発展継続枠(現在実施事業の継続など) 3プロジェクト



※責任を明確にするため、協定は自治体、広域組合または企業等と結ぶものとする。

県内自治体等 公募枠 選定方法 4プロジェクト



※責任を明確にするため、協定は自治体、広域組合または企業等と結ぶものとする。

事業費について

自治体等から寄附金(寄附講座)としてご支援いただく。

本件に関するお問い合わせ先  
福島大学農学系教育研究組織設置準備事務局  
024-548-8212